

TAKE FREE

【メルディア】一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA

VOL.59
JAN.2024

スペシャルオリンピックス日本
ドリームサポーター

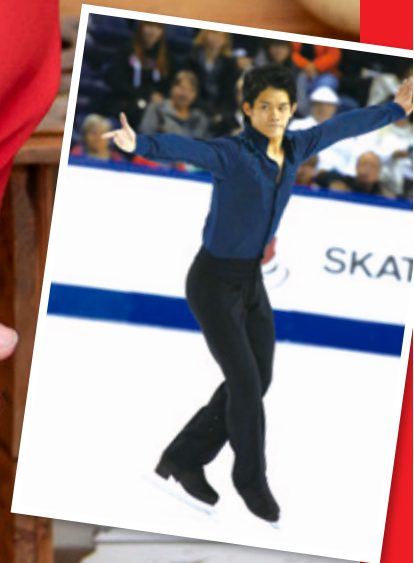
小塚 崇彦さん インタビュー



医学シリーズ5 自閉スペクトラム症
バイオマーカーを用いて
「困り事に関する
脳の状態を、
改善できないか」

障がい者が力を発揮できるよう
工夫された職場で
市場で高評価される
胡蝶蘭を作る!

チアダンスチームDream Team
障がいがある人もない人も、
ともに1つのパフォーマンスを
作り上げる



障がい...それは性格の一部

性格には優れたところがあるから尊重したい

障がい...それは性格の一部

性格には 優れたところがあるから尊重したい

愛知県スケート連盟創始者の一人である祖父、グルノーブルオリンピック男子日本代表の父、そしてフィギュアスケート選手だった母というスケート一家に生まれた小塚 崇彦さん。現役を引退した今は、スペシャルオリンピックス日本の認定コーチ資格を取得して知的障がい者にもフィギュアスケートの楽しさを教えています。また今回、スペシャルオリンピックス日本のドリームサポーターとして参加した「スペシャルオリンピックス2024長野」の開会式、セレモニー、フロアホッケーの試合もレポートしました。



スペシャルオリンピックス日本
ドリームサポーター
小塚 崇彦さん
インタビュー

- 03 **スペシャルオリンピックス日本 ドリームサポーター
小塚 崇彦さん インタビュー**
障がい...それは性格の一部
性格には優れたところがあるから
尊重したい
- 07 **障がい者が力を発揮できるよう工夫された職場で
市場で高評価される胡蝶蘭を作る!**
- 10 **医学シリーズ5 自閉スペクトラム症**
バイオマーカーを用いて「困り事に関する
脳の状態を、改善できないか」
- 12 **企業探訪 (株)JR東日本グリーンパートナーズ**
- 14 **多彩な障がい者プログラムを展開
誰しも「のびのびと生きる権利」がある!**
- 16 **チアダンスチームDream Team**
障がいがある人もない人も、
ともに1つのパフォーマンスを作り上げる
- 18 **おさんぽ DE 楽しむ!**
～東京湾に浮かぶ海ほたるから、木更津を巡る1DAYトリップ♪～
- 20 **美幸先生とたのしむ ミラクル絵本ツアー VOL.5**
- 22 **1人でも多くの方に寄り添いたい** まるさん対談
カウンセリングルーム メルディア ウェルネス
- 24 **障がい者にとって重要なことの一つは、
安全な交通手段の確保**
水越けいこ M Size はじまり Again
- 26 **漫画エッセイ**
**シンママのはじめて育児は
自閉症の子でした**
療育手帳で少しでも生きやすく育てやすく
- 30 **DELISH KITCHEN×
りくですよチャンネル コラボ企画**
- 31 **読者プレゼント**



「蹴りで遠くまで滑れる楽しさをみんなに体験して欲しい」

小塚崇彦さんがスケートを始めたのは、わずか3歳のときだったと言います。「父にリンクに連れて行ってもらったのが、スケートを始めるきっかけでした」と小塚さん。もちろん教えてくれたのは、オリンピックのお父さんだったそう。ただ、フィギュアスケートを強制されたことはなく、サッカーや野球、ラグビーなどやりたいことは何でもやっていたのだとか。「本格的に始めたのは5歳なのですが、僕は氷の上をただ滑るのが好きなので…。1歩蹴ったら、遠くまでスーッと滑っていくのが楽しいんです。もちろん、ジャンプやステップ、スピンのなどができるようになるのも魅力の一つではありますけどね」とフィギュアスケートの楽しさや魅力を教えてくれました。

今、小塚さんは全国で小塚アカデミーを開催するなど、多くの方に指導をしています。「氷の上は非日常です。非日常の世界はこんなにも楽しいというのを伝えたいですね。また、フィギュアスケートを観てくださっている方もたくさんいらっしゃるので、そんな方には実際に体感して、経験を増やして欲しいと思って指導をしています」と意気込みを話してくれました。

認定コーチの勉強が指導することそのものの勉強に

実は、小塚さんはスペシャルオリンピックス日本認定コーチの資格も取得しています。「もちろん、私たちと比べれば、競技時間も短く、技の難易度も低く設定されています。しかし、基本的には、私たちのコーチと同じです。スペシャルオリンピックス日本認定コーチの勉強をして、彼らとの接し方や、こういうところは待ってあげないといけないんだということ学びました。

私には、かつて恩師に言われて大切にしていることがあります。それは、「小さな子どもでも分かるように説明しなければ、自分が理解していることにはならない」ということです。例えば、あまりフィギュアスケートを知らない人に「ト



リップフリップ」と言っても理解しづらい。これを、「左足に体を乗せて、右足のつま先をつけて飛ぶジャンプ」と説明すれば、誰でも分かるのではないのでしょうか？指導するときに相手に伝わらなければ、教えていないのと同じです。スペシャルオリンピックス日本認定コーチの勉強で、このことを改めて認識しました。これから自分が教えるときは、スペシャルオリンピックスのアスリートは もちろん、子どもにも、あまりフィギュアスケートを知らない人にも自分の言葉で伝えられるようになりたいと思います」と小塚さん。

自分の気持ちに素直になって新しいことを始めて欲しい

小塚さんと話していると、スペシャルオリンピックスのアスリートを特別扱

いていないことに気がつきます。理由を聞くと、ひと言「性格は変えられないと思ったから」と。「僕はやると決めるまではまったくやらないけど、やると決めたら集中する性格です。スペシャルオリンピックスのアスリートは、私たちが10分のできることに20分掛かるかもしれない。でも、何回もくり返して練習をしたり、同じようにできるまで何回もくり返したり…。それは彼らの長けている能力ですし、見方を変えれば個性です。だ

から、僕は彼らを認めています。大人も子どもも、男も女も、障がいのある人もない人も、もちろんスペシャルオリンピックスのアスリートもみんな一緒なのです」と言います。さらに、「誰にとっても、できないことなんてない。誰でも努力をすればみんないつかできるようになります」と付け加えました。

そして、スペシャルオリンピックスのアスリートに「勝ちたいという気持ちに素直に向かって欲しい」と思っています。やはり勝ちたい気持ちがないと勝てないし、新しいこともできない。気持ち

に素直になることで自分の技術を向上させることになるし、ランクを上げることもなると思います」とエールを送ります。

芸術花火とのコラボレーションで地域とのつながりを

小塚さんは芸術花火のアンバサダーにも就任しています。芸術花火とは、花火を音楽とシンクロさせて打ち上げるもので、全国で開催されています。その芸術花火の中には、スペシャルオリンピックスのアスリートが参加している

大会があります。「コロナ禍、スペシャルオリンピックスのアスリートはあまり外に出られませんでした。そこで、『花火を観に行こう』という企画を提案したのです。さらに、『与えられるだけではなく、アスリートにも与える喜びを感じて欲しい』ということから、花火の後にスペシャルオリンピックスのアスリートがボランティアで後片付けを行っていただきます」と小塚さん。

これらの活動をすることで、スペシャルオリンピックスの認知度があり、アスリート一人ひとりが地元とつながり

をもてたそうです。芸術花火は花火師の仕事が少なくなる春秋・冬に開催されます。2024年4月から始まる芸術花火からも目が離せません。



フィギュアスケーター
小塚崇彦
全日本フィギュアスケート選手権に連続12回出場(2010年金メダル)、世界フィギュアスケート選手権に7回出場(2011年銀メダル)、2010年バンクーバーでの第21回オリンピック冬季大会では8位に入賞するなど、フィギュア界で一世を風靡した。現在、アイスショーへの参加、小塚アカデミーでの指導の他、スポーツ強化や地域活性・社会貢献活動に参加している。日本オリンピック委員会(JOC)でアンバサダーやオブザーバーを務め、スペシャルオリンピックス日本ではドリームサポーターに就任。2019年にはスペシャルオリンピックスの認定コーチ資格を取得した。



3名様 PRESENT

A 小塚崇彦さん
サイン入り
トートバッグ



提供 スペシャルオリンピックス日本

詳しくは31ページ



障がい者が力を発揮できるよう工夫された職場で 市場で高評価される 胡蝶蘭を作る！

東京都中央卸売市場に入荷連絡が入ると、即完売になるほど評価が高い胡蝶蘭があります。
実は、それを作っているのは、障がい者のみなさんでした。

JR成田線で成田と我孫子の間に位置するのどかな住宅街の新木。ここに、帝人グループの特例子会社として、ポレポレファームを運営し、農福連携に取り組んでいる帝人ソレイユ(株)があります。設立は2019年2月で、現在、従業員は障がいのある方36名を含む48名です。社長補佐の鈴木 崇之さんは「障がいのある家族を持つ社員たち3名で、帝人(株)に特例子会社を作らないかと掛け合いました。実は、私は、私はうつ病を発症したことがあります。そのとき、畑で作物を作って、心身共に救われました。同僚から『農福連携』といって、農業と福祉は相性が良い」と聞いたこともあり、特例子会社を作りたいと思ったのです」と言います。農福連携とは障がい者が農業分

農福連携で
親亡き後も生活できるように



営業部長 沢野 光秀さん
社長補佐 鈴木 崇之さん
農業事業部長 黒木 忠さん



「2024年第8回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム」開催 知的障がいがある人たちと 一緒に、垣根のない活動を！

ナショナルゲームで注目され、ユニファイドスポーツ®がひろがれば

知的障がいがある人たちに、スポーツの場を与えてくれるスペシャルオリンピックス。中でも4年に1度開催される「スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム」は、知的障がいアスリートたちのスポーツの全国大会と位置づけられています。2024年第8回を迎える大会は長野県と北海道の2

カ所で行われます。まず、長野県にある真島総合スポーツアリーナ(ホワイトリング)で開会セレモニーが行われ、その後、フロアホッケーとフロアボールの2種目で熱戦が繰り広げられました。開会セレモニーでは19都道府県から来た約330人の選手団が入場し、ドリムサポーターを務める小塚 崇彦さんがアスリートに「みんな緊張しているよね」と問いかけ、全員で「オー！」と声をあげて緊張をほぐしていました。



スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム開会式で



フロアホッケー

アスリートが自らPRする アスリートアンバサダー

スペシャルオリンピックス日本にはアスリートアンバサダーがいます。彼らはアスリートであると同時に、スペシャルオリンピックスの活動やアスリートをより多くの方に知っていただくよう、自分たちで考え、発信する広報の役割も担っています。「芸術花火の取り組みや魅力をアスリートアンバサダーが取材・発信してくれています」と小塚さん。

開会セレモニーを終えた小塚さんは「今回の長野開催は2競技だけでしたが、これだけのアスリートが集まってくれました。冬季競技にも目を向けてもらっているということ、うれしいですね。この大会にもっと注目してもらって、知的障がいのあるアスリートとないパートナーと一緒に競技をするユニファイドスポーツ®の参加者が増えるといいなと思います。一般の方も、ボランティアなどの形で関わってもらい、会場で競技を観て欲しいと思います。実際に肌で感じるのと、動画で観るのでは感動が違いますから。そうすることで、彼らのスポーツが身近になっていくと思います」と感想を伝えてくれました。また、アスリートの方々には「アスリートのみなさんも、良い緊張で臨んでくれることを願っています」とエールを送ります。



第2期アスリートアンバサダーの田中晴樹さんは「広報の仕事はやり甲斐があります」と目を輝かせて話してくれました。

開会セレモニーの会場で来場者を出迎え、靴を入れるビニール袋を渡してくれるのも、ロビーでお弁当を販売するのも、記念のピンズを販売するのも、中心にいるのは知的障がいがある人たちでした。そして、一般ボランティアがそれをさり気なくサポート。両者の間にはまったく垣根がありません。こんな世界が広がるのが望まれます。

スペシャルオリンピックスについて、詳しくは「メルディA55号」をご覧ください。
https://mlda.jp/m_meldia/2801/



あさい たかふみ
浅井 孝文さん
人が足りていない作業に入っていますが、「これができるようになったら、次はこれを教えてあげたい」と、仲間が成長する姿を見るのが楽しいですね。自然に触れる仕事なので、気持ちが落ちつきます。

野で活躍することを通じて、自信や生き甲斐を持って社会参画する取り組みで、国が推進しているものです。

共に立ち上げた農業事業部長の黒木忠さんは「私の息子には重度の知的障がいがありますが、そんな人々が働ける場所ほとんどありません。身体障がい者とは違って、判断力やコミュニケーション力にハンディがあるため、雇用しにくいのです。そこで、自分たちが他界しても、子どもたちが地域で生活できるようにとの思いから設立に参加しました」と思いを語ります。

スワヒリ語で「ゆっくり、のんびり」を意味する「ボレボレ」を冠したボレボレファームでは、露地野菜とバラ、胡蝶蘭を作り、出荷しています。

スタッフ全員が 黒字化を目標に取り組む

特例子会社の数は年々増え、現在、全

だと途中で嫌になると思うんですが、彼らは本当に楽しそうにやり続けてくれる才能があるのです。このように、障がい特性にあった業務を割り当てています。一方で、精神疾患のスタッフには、神経質で細かいことが気になる方が多くいらっしやいます。そういう方々にはまさに職人技が要求される胡蝶蘭の微妙な仕立て、バランスを整える最終作業に取り組んでもらっています」と教えてくれました。



300グラム前後で計量する場合は、「300~350グラム」ではなく、「この2つのテープの間に針がくるように」と指示。



かどに さだはる
廉谷 貞治さん
自分が仕立てた胡蝶蘭が、市場で取引されているのがうれしい。引きこもって昼夜逆転した時期もありましたが、今は規則正しい生活をしています。常に体調を万全にして仕事に臨めるようにしています。

国に600社ほどあります。ところが、その多くは赤字だといえます。そんな現状の中で、ボレボレファームは黒字を目指す数少ない企業です。その理由を、鈴木さんは「働く社員の誇りのためです」ときっぱり。具体的にとどのような取り組みをしているかについて、黒木さんは「スタッフには、生産性を上げることを意識してもらっています。例えば、作業効率を上げるために時間を測って確認する、その日の作業で何本折ってしまったかを記録することで出来高の割合である歩留まりを管理するなどです。意識することで成長し、作業の時間も短く、正確になりました。当然ながら未達の日もあって、落ち込んでいることもあり。でも、達成したときにねざらつてあげると、作業に対して確実に自信が付き、スキルが上がっていきま

す」と言います。特に胡蝶蘭の仕立ては、花が正面を向くように支柱に沿って曲げたり、手前に向けてたりと繊細な作業になります。これは相当な技術を要する作業なのです。ボレボレファームには見学や取材の



マネジメントと構造化で 全員が力を発揮

ボレボレファームには、作業を進めていく上での工夫があります。黒木さんは「働きやすくする仕組みや環境作りを進めています。例えば『この野菜を300グラム前後にして包んでください』というあいまいな指示が理解できないスタッフでも、秤のメモリに印をつけて、『針がこの間に収まるようにしてください』と伝えれば誰にでもできます」と話します。

胡蝶蘭が並んでいる台を見ると、そこには4列の赤や5列の黄色い線が引かれていました。「胡蝶蘭は並べると葉が横に広がり、大きさもそろっていません。ですから、自由に乱雑に並べてしまうと配置できる数が少なくなり、売上が減ることになります。そこで、台にベンチマークとなる基準線を引

き、トレーの基準線と合わせることでまっすぐに並べることができるようになりました」とのこと。「野菜チームでは、中程度の知的障がいがあるスタッフも袋詰め作業をしています。何度指導しても数え間違いがなくなりませんでした。本人はすっかり落ち込んで、『自分は

依頼が数多く入ります。「見学者や取材の方に、メンバーを紹介しながら、『数字目標をもって、頑張ってみて』と伝えると、彼らは間接的に褒められていて、評価されていると受け止め、それが喜びや自信につながっているのだらうなと思います」と黒木さん。

特性に合った適材適所だから 自分らしく仕事ができる

例えば胡蝶蘭なら、水やりから葉を磨く、鉢上げ、花の仕立て、傷の確認、出荷など作業は多岐に渡ります。これらの人員配置はどのように行っているのでしょうか。

黒木さんは「入社時に障がいの特性などさまざまな情報をいただきます。それによって、その方が力を発揮できる分野はどこなのかを考え、まず、実習という形で手先の器用さやバランス感覚を拜見して、担当を決めています。

例えば、重度の知的障がいと自閉症のあるスタッフがいますが、彼は自閉症特有の集中



胡蝶蘭はPlanet's Hug Orchidとしてブランド化し、高級感と丁寧な生産過程が伝わるツールをつけています。



えびはら 海老原さん
私の作業は、胡蝶蘭の見た目を整える部分なので、皆さんが胡蝶蘭を見てくれるのがやり甲斐です。家族に自分が作った胡蝶蘭をプレゼントしたことがあります。すごく喜ばれました！それがうれしかった。



さいとうはやと 斉藤 隼さん
野菜を栽培していますが、苗木を畑に植えて、それが少しずつ育って大きくなり、実をつけると、すごく達成感があります。ここで仕事をするようになって、野菜の勉強ができたし、野菜を届けるために免許も取りました。

もうここでは働けない」とまで考えるようになったのです。そこで、カゴを仕切って、そこに1袋ずつ入れてもらうようにしました。3×4に仕切ることができなくても12袋にできたことが分かります。つまり、できるように指導するのではなく、できなくても構わないという仕組みにしたのです。これにより、彼は数えるストレスがなくなり、徐々に落ち着きを取り戻し、元気に仕事ができるようになりました」と一例を教えてくださいました。

営業部長の沢野 光秀さんは「褒められたり、人が見てくれていたりというのはモチベーションにつながるようですよ」と言います。それぞれのスタッフが力を発揮できるようにと作られた仕組みや考え方には、見習いたい部分がたくさんありました。



数を間違えないように、仕切りをしたカゴ。それぞれの仕切りに入れば、1カゴ12袋になります。

帝人ソレイユ(株)
農福連携として、オーガニック野菜や胡蝶蘭、エディブルローズなどの生産・販売を行う。他に、オフィスサポート事業として帝人グループ内の事務補助も行う。特例子会社初の農林水産省「ノウフク・アワード2021」チャレンジ賞を受賞。

住所:千葉県我孫子市布佐845-1
ヒルサイドビル丹羽103
電話:04-7199-9591
https://teijin-soleil.co.jp

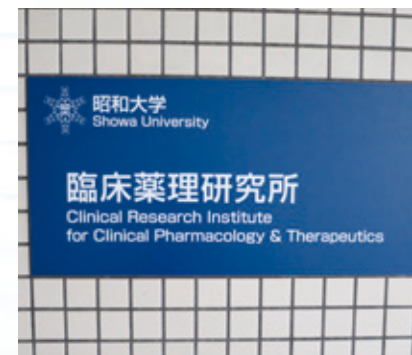




バイオマーカーを用いて「困り事に関する 脳の状態を、改善できないか」

世界に先駆けて、2016年に「自閉スペクトラム症を脳回路から見分けるバイオマーカー」を発見したという学術発表がなされて7年。

バイオマーカーの研究は第2世代に入り、より実用的で信頼性の高いバイオマーカーの開発を進めています。



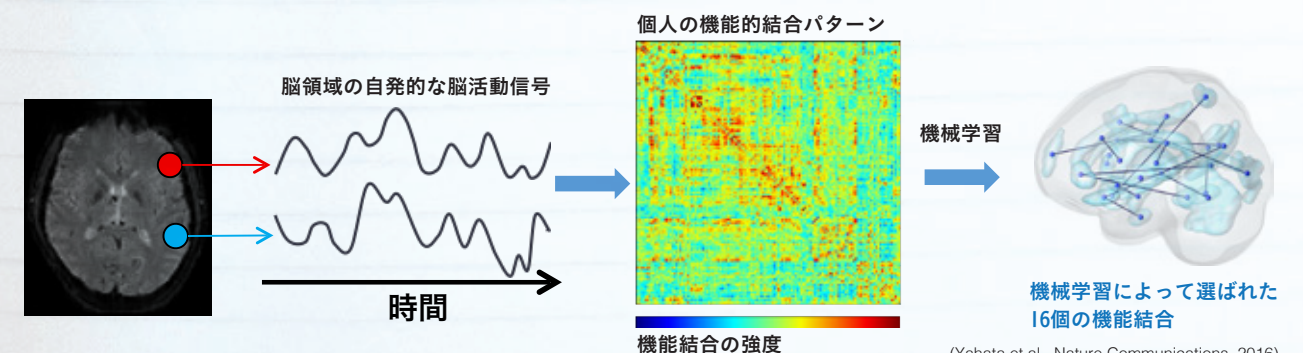
昭和大学発達障害医療研究所
講師・工学博士
板橋 貴史先生
2012年に九州工業大学生命工学研究科脳情報専攻博士後期課程修了。2012年昭和大学薬学部薬学植物薬品化学教室にポストドクターとして在籍。2014年から昭和大学発達障害医療研究所にて講師として、発達障がい当事者を対象とした神経画像研究に従事。

脳の回路を調べることで 自閉スペクトラム症を見分ける

近年、1000人に1人は自閉スペクトラム症を抱えていると報告されていますが、その診断は問診や行動観察などによって行われ、診断に時間がかかることや、判断が難しい場合があることが問題になっていきます。それらの背景を受けて、自閉スペクトラム症を数値として表せないかというところで、脳科学推進プログラムの一貫として、MRIによるバイオマーカーの研究がスタートしました。

自閉スペクトラム症を見分けるバイオマーカーの発見について、昭和大学発達障害医療研究所の板橋 貴史先生は「発見は、私がこの研究を始める前の話ですが」と前置きをして、「脳は外部情報が与えられなくても、常に自発的に活動しています。この安静にしているときの脳活動が定型発達者と自閉スペクトラム症の方では違うのではないかと、この仮説のもと、これまでさまざまな研究がなされてきました。脳はそれぞれの場所が同期（接続）しながら回路を作っていることを仮説に研究しています。MRIから出たときに『何を考えましたか？』と尋ねるのですが、音楽が好きの方は『頭の中で演奏をしていました』『歌っていました』、料理が好きの方は『頭の中で料理を作っていました』『夕ご飯を考えていました』などとおっしゃいます。こちらから『何を考えてください』と指示を出すと、考えるべきことに固執してしまったり、考えているのに点数が上がらないとネガティブになってしまったりで、逆に点数が下がってしまいます」と言います。

方では弱くなっている、あるいは、逆に強くなっている機能結合が存在します。



安静にしている状態で、MRIで約10分、脳の活動を図ったデータ。

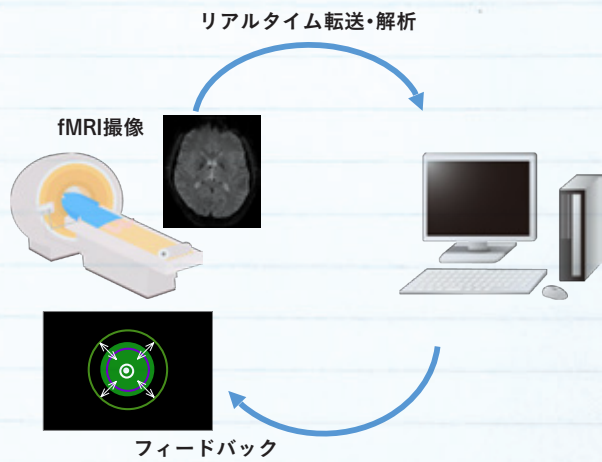
(Yahata et al., Nature Communications, 2016)

2016年の研究では、何万もの機能結合の中から16結合を見るだけで自閉スペクトラム症かどうかの判別が付くことが分かりました。さらに、その方がどれだけ自閉スペクトラム症らしいかをこの結合を用いることで数値で表すことができたのです。しかも、人種を越えて判別することができました」と教えてくれました。

自閉スペクトラム症の方は、それぞれ困り事や症状が異なります。将来的に、このMRIを使ったバイオマーカーを用いることである程度グループ分けできるようなれば、それぞれのグループに合った治療法や対処法を提供することができるようになる可能性があるだろうとのことでした。

バイオマーカーを元に 自閉スペクトラム症を治療

脳の状態を望ましい状態に変更させる方法としてニューロフィードバックという方法があります。これは、自分の脳の活動を脳波計やMRIなどのデータで可視化し、リアルタイムでモニタリングしながら、自身で活動を調整できるようにする方法です。バイオマーカーを確立することで、自閉スペクトラム症の方に對して、ニューロフィードバックを用いた新しい支援法を提供できる可能性があります。



板橋先生は「例えば緊張しているときは心臓がドキドキしたり、筋肉がこわばったりします。緊張している人にドキドキやこわばりを数値化して見せ、数値が低くなるように、つまり、ドキドキやこわばりを抑えるようにコントロールしてもらえば、緊張はとれていくはず。それと同じように脳の状態を可視化し、制御する訓練を脳で行うのが、ニューロフィードバックです。

具体的には、MRIに入っているとき、「何か20秒くらい考えてください」と指示を出して、脳の活動を測定します。そのデータをリアルタイムで解析し、回路がつかっているかどうかを点数化して、MRIの中にあるディスプレイに映すのです。中に入っている人には、何を

考えたらず点数が高くなるのかを理解してもらいます。これをくり返すことで、「自閉スペクトラム症の方の困り事に関する脳の状態を、改善できないか」ということを仮説に研究しています。MRIから出たときに『何を考えましたか？』と尋ねるのですが、音楽が好きの方は『頭の中で演奏をしていました』『歌っていました』、料理が好きの方は『頭の中で料理を作っていました』『夕ご飯を考えていました』などとおっしゃいます。こちらから『何を考えてください』と指示を出すと、考えるべきことに固執してしまったり、考えているのに点数が上がらないとネガティブになってしまったりで、逆に点数が下がってしまいます」と言います。

ただし、実際にニューロフィードバックで効果を出すには、患者さんの根気が必要になるのだそうです。「どうやって点数が上がるとかを理解し、自分をコントロールする感覚をつかむまでには時間が掛かります。ですから、途中で挫折しないように、あるいは、させないようにするのが大切なのです」と板橋先生。

今後の夢を聞くと、「MRIに1時間入ることを定期的に何度も繰り返して、ニューロフィードバックを行うのは、患者さんにとってかなりの負担だと思います。最終的には脳波計のように簡単な

機器で計測できるようにし、診察の帰りにちよつと30分くらいニューロフィードバックをして帰ることができれば、街のクリニックでも実施できるのではないのでしょうか。将来的には、そのような形で実用化し、全国の自閉スペクトラム症の患者さんが、街のクリニックで治療できるといいなと考えています」と言います。

さらに続けて、「実は、バイオマーカーやニューロフィードバックは、自閉スペクトラム症だけではなく、発達障がいの方にも使えます。今は多くの自閉スペクトラム症や発達障がいの患者さんが治療を受けていると思います。しかしそれ以外に、このニューロフィードバックや経頭蓋磁気刺激法など、ひとつでも多くの治療選択肢を提供できるようにすることが、私たちの役割だと思っています」と力強い言葉をくれました。



企業探訪



代表取締役社長 あびこ ひとし 安彦 仁
1999年JR東日本に入社、横浜支社人材育成課長を経て、2021年にJR東日本グリーンパートナーズへ。2023年6月にJR東日本グリーンパートナーズ代表取締役社長に就任する。

社員一人ひとりの チャレンジの積み重ねで 高い定着率を誇る

知的障がい者雇用を中心とした
JR東日本グループの特例子会社

(株)JR東日本グリーンパートナーズは、JR東日本グループの特例子会社です。設立について、安彦仁社長は「東日本旅客鉄道(株)は、これまでも事務職を中心に身体障がい者の雇用を行ってまいりました。当社が創業した2008年頃は、知的障がい者雇用促進という社会的なトレンドもあったため、主に知的障がい者を雇用する会社として設立されたのです」と言います。

現在、事業所は戸田・北戸田・大宮・新宿・東京の5つ。社員数は113名で、そのうち知的障がい者は40名、精神障がい者は4名、身体障がい者は1名となり、障がい者の平均年齢は33歳です。業務内容は、JR東日本社員の「制服管理事業」「グループ会社向けに名刺や氏名札を制作したり、パンフレットや研修教材の印刷・製本を行ったりする」「印刷サービス事業」「駅構内の植栽施設を維持管

理する「植栽管理事業」、事務用品の仕分けや発送などを行う「メールセンター事業」、外国のお客さま向け「ジャパンレールパスの仕分け・集計・確認などを行う」「ジャパンレールパス確認業務」、キッチンカーや移動販売車での「販売事業」などとなります。

高い定着率の要因は
定着支援とマルチジョブ

(株)JR東日本グリーンパートナーズの特徴は、退職者の少なさにあります。知的障がい者における就職後3カ月での離職率は、職種によっても異なりませんが、約3割とされています。ところが、「創業からの15年間で、50名の障がい者を雇い、退職したのはわずかに5名だけです」と安彦社長。

定着支援として行っていることは、まず、年度ごとの目標設定。さらに、四半期ごとに各自で目標を振り返るという取り組み



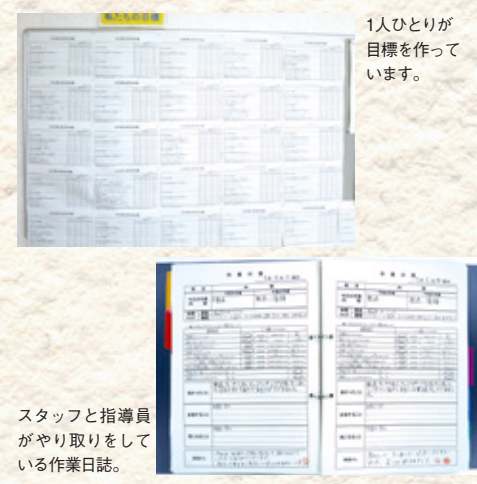
をしています。日々行うこととして、指導員と作業日誌をやり取りし、そこ

互いが感想を書くという取り組みもあります。スタッフは、毎朝、指導員からのコメントを楽しみにしているようです。

さらに、就職前から関わってきた支援センターの担当者と、密に連絡を取り



スタッフが作った苔玉。



1人ひとりが目標を作っています。
スタッフと指導員がやり取りをしている作業日誌。

指導員として入社間もない社員は「言葉づかいや仕事を常に指導員が見ていて、それによってペアを変えたり、作業内容を変えたりしているのがすごいなと思いました。スタッフはみんなにここに挨拶をしてくれま

合っています。月に一度、全支援者に来社いただいて連絡会を開き、会社

組んでいることなどの説明、それによってスタッフが抱えるであろう変化などを伝えます。その後、支援者にはスタッフと面談をしてから帰ってもらうのです。家庭とのやりとりも、間に支援者に入っていたことで、家族の本音を聞き出していただくことで、家族が定着率が高い大きな要因になっているのではないのでしょうか。

私たちは1日の中で、一人のスタッフがいくつかの仕事をこなすようにシフトを組んでいます。それがマルチジョブです。例えば、午前中に制服のピッキングをすれば、午後は苔玉作りといったイメージです。そうすることで、モチベーションの維持に繋がりますし、ストレスをため込まず済みます」と話します。

居心地のいい会社です」と言います。

旅行やスポーツで
職場を楽しんでいる

スタッフが楽しみにしていることに、社員旅行やスポーツなどがあります。安彦社長は今年が創立15周年ということ、バス旅行で江ノ島に行きました。水族館を見学して、バーベキューをしたのですが、スタッフはみんな楽しそうでした。

会社全体で取り組んでいるスポーツとして、ポッチャとティーボールがあります。特にポッチャはJR東日本グループの大会があり、私たちも参加しています。ティーボールは障がい者雇用をしている企業の大会や、鉄道の特例子会社で大会があるため、会社を挙げて取り組ん



from staff



(右)定着支援を担当している 小鷹 由美子さん
「難しい言葉は使わず、スタッフがきちんと理解しているかどうかを確認しながら話しています。また、調子が悪そうな時は声のトーンが変わるので、気づいた時は呼んで話をするようにしています。特にコロナ禍では不安を感じてパニックになるスタッフもいましたので、安心できるように声がけしました」

(左)新規事業を担当している 相馬 美香さん
「弊社の事業は制服のピッキングなど、直接お客さまの顔が見えない仕事が多いのですが、キッチンカーや移動販売車は、目の前のお客さまから直接感謝の言葉をいただける仕事です。これはスタッフにとって大きな魅力となっているように思いますので、これからも新商品開発や新規出店に取り組み、成長の場を広げていきたいと思います」

誰も

多彩な障がい者プログラムを展開 「のびのびと生きる権利」がある!

障がい者プログラムを通して、
お互いが育っていると語る東京YMCA。
そこには、スタッフの熱意と愛情が
あふれていました。



熱意のあるスタッフが 知的障がいを抱える人を応援

今や全国組織になっているYMCAが、東京で発足したのは1880年のこと。もともとは、青少年の心豊かな成長を願い、1844年にロンドンで誕生した団体です。ちなみに、YMCAはYoung Men's Christian Associationの略で、日本語では「キリスト教青年会」と訳されますが、布教や伝道をする団体ではありません。

現在、東京YMCAでは多くの障がい児プログラムを展開しています。東京YMCA高等学院の学院長であり、オルタナティブ研究所の所長でもある井口真さんは「障がい児プログラムは1953年に神戸で始めたのが最初です。当



時、まだ障がい者が差別に曝されていたため、外に出る機会がほとんどありませんでした。そこで、そんな子どもたちを連れてキャンプを始めたのです。東京では1960年代に肢体不自由児と知的障がい児のキャンプを始めました。その後、1970年から1980年代にかけて増え、1990年代になると学習障がい者のためのプログラムも登場します。

現在、東京YMCAでは障がい者支援として、発達に課題を抱える小中高生に居場所と水泳療育を行う「放課後等デイサービス（PIT西早稲田）」、人との関わりの中で社会生活を送るための学びを深める「ソーシャルスキルトレーニング」屋外でのリクリエーションやバスハイクを行う「グループ活動」、知的障がいや発達障がいのある子どもや成人を対象とした「水泳クラス」などを設けています。また、YMCAが得意とするグループで一緒に過ごすことを大切にしているキャンプも開催。ときには障がい者のみで、ときには健常者と一緒にと、多彩なプログラムを用意しています」と話します。

手を差し伸べることは 特別なことではない

井口さんは障がい者プログラムに関わってきた経験から、「彼らは水や雪が大好きですね。ですから、スイミングや

子どもを成長させる キャンプでの楽しい体験

キャンプは2泊3日や3泊4日と宿泊を伴います。「保護者の方は、預けている間、少し休まるでしょう。よく『キャンプは子どもが楽しんでるから負い目なく休める』とおっしゃいます」と井口さん。井口さんも「あるバスハイイクの解散場所、なかなか現れない親御さんがいました。少し遅れて、2人のお母さんが走ってきて、『ごめんなさい。2人で映画を観ていたら終わらなくて...』と。それを見たとき、親御さん同士もYMCAを通してつながり、励ましあっているんだな。子どもたちが楽しんでいる間、自分たちも安心して気分転換をしているなんて、ステキなことだと思いました。10分遅れるなんて、どうでもいいことな

んです。親御さんが気分転換できてれば、お子さんにゆとりを持って優しく接することができるでしょう」と思い出を語ります。

また、キャンプでの変化を、井口さんは「周りを見て、いつの間にか、ひとりで着替えをするようになるんですね。そして、家に帰っても自分で着替える...。ある日、お母さんが私に『キャンプって効くんですね』と言いました。私も笑いながら、『効くって何?』と返すのですが、成長には目を見張るものがあると思



東京YMCA高等学院
学院長
東京YMCA
オルタナティブ研究所
所長 井口 真さん

東京YMCA
放課後等デイサービス
管理者
大津 桃子さん

ます」と言います。「学校の様子を語らないお子さんも、キャンプの話はとめどなく話すようです。よく『今まで何を聞いても話してくれなかったのに、友達の話と一緒に作った料理の話をも自分から話してくれてうれしかった』と保護者に言われます」と大津さん。

「精神」「知性」「身体」の調和のとれた成長を大切にしているYMCAらしい話が伺えました。



スキーは体を使って長く楽しめる趣味になります。ただスタッフは、通常の教育スキルにプラスして、彼らの特性を理解し、瞬時に肌感覚で具体的な判断をして動かなければなりません。そのため、YMCAでは定期的にスタッフ・ボランティアのトレーニングを行っています」と教えてくれました。

さらに、「キャンプに行くと、ボート漕ぐのが上手な人、火起こしが上手な人、薪割りが上手な人、逆にできない人などいろいろいます。でもそこは、カバーし合いながら生活できます。むしろ、お風呂や食事の準備などで何気ない

雑談をしているときに、その人自身の自然な姿がみえるのです。そうした時間こそ、心の成長が促されます。」と井口さん。

東京YMCA放課後等デイサービス管理者の大津 桃子さんは、「YMCAには大学生のボランティアリーダーがたくさんいます。彼らはここに来るまで、あまり障がい者と関わる機会がありません。そんなボランティアリーダーは、『これまで、バスや電車で隣に大声を出す人が座ると、席を立っていました。でも、活動を通じて触れ合っていくと自分たちと何も変わらないことに気づきました』と言います。そして、手を差し伸べるのが特別なことではなくなるのです」と、自分たちも成長させてもらっていると話します。



また、キャンプでの変化を、井口さんは「周りを見て、いつの間にか、ひとりで着替えをするようになるんですね。そして、家に帰っても自分で着替える...。ある日、お母さんが私に『キャンプって効くんですね』と言いました。私も笑いながら、『効くって何?』と返すのですが、成長には目を見張るものがあると思



公益財団法人東京YMCA
住所:東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
電話:03-6302-1960
https://tokyo.ymca.or.jp
東京YMCA所在地一覧
https://tokyo.ymca.or.jp/service/place.html
「みつける。つながる。よくなっていく。」をスローガンに、さまざまな活動を行っています

